

国会議員との医療制度の勉強会

「交渉人」を介して要望の伝達を

5月21日、西宮市民会館で、参議院議員の梅村聡氏を迎え「国会議員との医療制度の勉強会」を開催。伊賀幹二先生(西宮市・伊賀内科・循環器科)が司会を務め、医師・歯科医師ら12人が参加した。参加いただいた先生からの感想文を掲載する。

診療報酬の算定方法や救急医療の改革方針などをみていると厚労省の考えていることと現場の医療には隔たりがあるように感じる。

本来であれば我々医師は国や厚労省に對してもっと改善要求を突きつけなければならぬのだから、多くの医師は実際の医療に注力するあまり政治的活動には消極的であると思う。

もちろん医師会の先生方は現場の意見を代表して頑張ってくださいているのだが、来年度の診療報酬改正延期をめぐる駆け引きをみても満足はいく結果は出にくいように感じる。

この度、縁あって内科医でもあられる参議院議員の梅村聡先生の勉強会に参加



最新の医療情勢について語る梅村氏

第26回漢方研究会

患者さんの気力を養う治療が重要

6月4日、西宮市神社会館で光畑裕正先生(順天堂大学医学部教授)を講師に迎え、「慢性痛に対する漢方治療」をテーマに第26回漢方研究会を開催。川崎史寛先生(西宮市・川崎医院)、長光由紀先生(伊丹市・ウイング調剤薬局)が司会を務め、医師・薬剤師ら103人が参加した。参加いただいた先生からの感想文を掲載する。

今回慢性痛に対する漢方療法の講演会に参加することができました。慢性痛とは、正常な組織治癒期間、通常は三ヶ月間を超えて疼痛が持続すること、と定義されているそうです。光畑裕正先生は自身が柔道をされているときに発症した一

過性の四肢麻痺に対する治療を模索されるうちに漢方療法に目を向けられるようになったそうです。先生の慢性痛に対する治療方針は、「患者さんに夜間十分に睡眠をとってもらいたい、ごはんをしっかり食べてもらうようになること」が最重要であるそうです。患者さん一人ひとりの症状は様々ですが、慢性痛の治療は急性期と異なり痛みを取るための治療に加え、患者さんの気力を養わせる治療も重要であることがよくわかりました。

また、漢方治療は診察に時間をかけることが重要な治療とされていますが、短時間の忙しい外来診察中、患者さんとのコミュニケーションの大切さも再認識させられました。慢性痛は触覚痛などの感覚痛があり、痛みの閾値も患者さん一人ひとり異なるため、非常に診断が難しい疾患とされています。

当院は外来のみのクリニックですので、手術施設が無く急性期の患者さんの治療には積極的に参加できませんが、今後は疾病の早期発見に加え、術後の慢性痛に対する治療に漢方療法を用いて取り組んでいきたいと思われました。

【芦屋市・由つ子クリニック 藤岡 真紀】



医師ら103人が会場いっぱいに参加した

西宮・芦屋支部 夏の交流企画 屋形船で堪能する日本の夏

【日時】 8月27日(土)18時~20時
集合時間 17時45分
【会場】 大阪・天満橋北詰棧橋乗船場
京阪線・谷町線天満橋駅より北へ徒歩1分
【会費】 7,350円 (事前申込制)



第17回医療過誤訴訟セミナー

【日時】 8月27日(土)15時~17時
【会場】 西宮市民会館501号室
西宮市六港寺町10-11 TEL0798-33-3111
【講師】 大阪大学大学院医学系研究科法医学教室 的場 梁次 先生
【司会】 西宮市・半田医院 半田 伸夫 先生

させていただいた。オフレコの話もあり詳細な内容を記載できないのは残念だが、日本の医療費の問題点、来年度の診療報酬改正の予測、今後の震災復興プランなど様々な問題について大変わかりやすく解説していただいた。最も大事なことは国や厚労省に我々の意見を届けることではあるが、正面からぶつかっていても利害関係が相反する場合はつぶされてしまうこともあるらしい。やはり要望を伝えるには政治と医療に精通した交渉人を介するほうが良さそうである。

交渉人とは緻密な双方向コミュニケーションが必要であるが、最近の議員さんはtwitterやfacebook、メール、ブログなどを利用して情報交換の機会を与えてくれていることには好感が持てた。

第9回胸部X-IP読影会

「ある」と思っ て診察することが大切

5月27日に西宮渡辺心臓・血管センターで、原秀樹先生(尼崎市・はら内科クリニック)を講師に迎え、橋野盛彦先生(西宮市・橋野医院)を司会に第9回胸部X-IP読影会を開催、14人が参加した。参加いただいた先生からの感想文を掲載する。

透明や白色でない濁った色の粘液が咽頭後壁に見られたら、肺結核、副鼻腔炎、肺非定型抗酸菌症を考えてみよう、「ある」と思って診察することが大切と、原秀樹先生が教えてくださいました。



持ち寄った画像を真剣に検討する参加者

ネトリン0.3mlの吸入1回すると、痰の採取がしやすくなる。十分量採取できれば、1回の喀痰検査で肺結核の有無が判定できる。4週間の培養結果が出るまでは、一般の抗菌剤で治療することもよい。蓄痰は冷蔵庫に保管しておいて、十分な量がたまったから提出。

・眼の奥のひどい痛みを伴うときは、2〜3日、プレドニン20mg/日を併用して抗菌薬等を処方する。図で説明すると後鼻漏を理解させやすい。

・小太りの中年女性で喫煙歴のない人が、咳と濃性痰で受診。吸気終末の肺雑音あり。喀痰検査で結核菌が否定できれば肺非定型抗酸菌症が多い。病原性がなければ治療は不要。病原性があれば「痰をためない。肺炎を起こさない」を目標に、CAMやEMの相当長期間欠投与(例えば3〜6カ月投薬、3〜6カ月休薬)。

・テオフィリンは気管支拡張作用がない。橋野、森下、山路各先生方の症例に対しても、原先生から出されるキーワードは大変勉強になりました。胸部X-IP読影会に参加させていただいて、本当によかったと思います。

【西宮市・ふじもり診療所 藤森永二郎】

西宮・芦屋支部 第31回総会

日時：7月23日(土) 会場：西宮市立勤労会館

総会議事：午後2時～ 於：第2会議室

記念講演：午後2時30分～ 於：大ホール

テーマ **「ウミガメを学んで人間を知ろう！」**

講師 神戸市立須磨海浜水族園園長
日本ウミガメ協議会会長
亀崎 直樹 氏



入場料：無料

※どなたでもご参加いただけます。スタッフやお子様連れでぜひご来場ください！

懇親会 & 『続・続々英語で診療』出版お祝い会：

午後4時45分～ 於：第2会議室

今年6月に榎金芳堂から、支部研究会「Medical English」の企画進行役の坂尾福光先生と講師のRobert Conroy先生が共著で、『英語で診療』シリーズの続・続々判を同時に出版いたしました。

これを祝して支部では、支部総会の後にささやかながら出版お祝い会を開催することとなりました。

ぜひとも総会議事からの先生方のご参加をお願いする次第です。



厚生労働省職員との懇談会

【日時】 7月30日(土) 18時～20時

【会場】 保険医協会会議室
神戸市中央区海岸通1-2-31-5F

3回目を迎える今回の「厚生労働省職員との懇談会」では、政府が発表した外来受診への「定額追加負担」の問題などを個別にあげ、厚生労働省職員と論議いたします。事前にお申し込みのうえ、ご参加ください(定員20人)。

上記企画へのお申込み・お問合わせは 協会事務局 岡林・山田・伊藤まで
Tel:078-393-1803 / Fax:078-393-1802 / Mail:yamada-t@doc-net.or.jp

世話人会だより

西宮・芦屋支部は6月24日に西宮医療会館で世話人会を開催。9人が参加した。

【報告】

- ① 第9回胸部X-IP読影会(5・27)
- ② 職員接遇研修会(5・28)
- ③ 第26回漢方研究会(6・4)

【予定・企画】

- ① 英語で診療#30(7・15)
- ② 第27回在宅医療研究会(7・16)
- ③ 第31回支部総会(7・23)
- ④ 『続・続々英語で診療』出版お祝い会(7・23)
- ⑤ 健康と医療について語り合う会(7・28)
- ⑥ 厚生労働省職員との懇談会(7・30)
- ⑦ 第17回医療過誤訴訟セミナー(8・27)
- ⑧ 支部納涼会(8・27)
- ⑨ 保険請求事務講習会(9・10・11)
- ⑩ 支部設立30周年企画(10・22)
- ⑪ 第28回在宅医療研究会(11・26)

※世話人会の日程は毎月第4金曜日です。支部についてのご意見や企画案などをお寄せください。